

畝傍駅の130年を振り返る連続講演会Ⅲ

畝傍駅の明治・大正・昭和

JR畝傍駅舎は、開業以来長きにわたり八木町（現・橿原市）とともに歩んできました。畝傍駅開業後の130余年、奈良県内の鉄道・道路網の整備や産業振興、橿原市の形成とどのように関わりながら歴史を歩んできたのかを、いっしょに考えてみましょう。

■第1.2回講演会の記録

中山嘉彦氏「畝傍地方の鉄道史 -各路線・各駅の変遷-」 [>>](#)

北山峰生氏「畝傍と橿原をめぐる近代史」 [>>](#)

■第3回講演会

2026年7月12日（日）13:00開場、13:30開演

場所：ミグランス4F コンベンションルーム [>>](#)

奈良県橿原市内膳町1丁目1-60（近鉄大和八木駅前カンデオホテルズの同建屋）

講師：中山嘉彦氏（大阪学院大学教授、近畿産業考古学会会長、産業遺産学会理事）

講演テーマ：「畝傍駅の明治・大正・昭和」—新発見史料とともに未だ全貌がわからない初代畝傍駅駅舎。貨物輸送から始まった駅・鉄道施設が、大正・昭和の御大典、そして皇紀2600年を契機に変貌する。

・・・新出史料を元に畝傍駅の歴史と鉄道遺産を詳解します。

世界遺産「飛鳥・藤原の宮都」登録間近、「日本文化のクロスロード」（近畿の風景街道）、「竹内街道・横大路」（日本遺産）が通る交通の拠点八木に近代化の波が汽車とともに訪れました。明治中期物流の要を担った畝傍駅の誕生です。その後二度の御大典（天皇即位）、紀元二千六百年奉祝記念事業などの重要な歴史の舞台となり、高度経済成長期を乗り越え凍りついたように、現在の姿が残っている貴重な駅です。

2026年春JR西日本と橿原市の間で確認書が交わされ、次の時代にその姿が継承されることが決まった畝傍駅に、そうした背景があることを今一度振り返ってみたいと思います。 [>> 橿原市HPより「JR畝傍駅の駅舎及び駅周辺の活用について」](#)

また、このたび地元で発掘された写真や文書、埋もれていた鉄道資料を基に、畝傍駅の歴史の新事実を発表する機会になるでしょう。

■特別ゲスト 西川 聡氏（今井町在住 近畿産業考古学会会員）

テーマ「昭和初期の貴重写真 畝傍地域の記録との出会いについて」

問い合わせは【080-3800-5650 伊ガミ】もしくは、

下記のNPO八木まちづくりネットワークHPの【問合せフォーム】をご利用ください。

■申込不要、入場無料(先着順)

■主催 NPO法人八木まちづくりネットワーク <https://yagimachi-net.jp/>

NPO法人大和八木まち創り会

■協力 近畿産業考古学会 <https://kinias.jp/>



明治後期（喜多康祐氏提供）



大正初期（喜多康祐氏提供）



昭和初期（喜多康祐氏提供）

畝傍駅の130年を振り返る 連続講演会の案内

JR畝傍駅舎は、開業以来、長きにわたり八木町（現・橿原市）とともに歩んできました。130年目を越えたこの機会に、同駅舎と橿原市や奈良県との歴史的なかかわりを振り返ってみることは、意義があると思います。このテーマに基づく連続講演会を企画いたしました。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。

この畝傍駅は、1893(明治26)年に、大阪鉄道が高田駅-桜井駅間を延伸した際に開業しています。これにより、奈良盆地と大阪とを結ぶ鉄道路線が確保され、その後、関西鉄道への譲渡（1900(明治33)年）や国有化（1907(明治40)年）を経て、現在の桜井線（愛称は「万葉まほろば線」）に至っています。戦後になって自動車による輸送が本格的に普及するまで、旅客・貨物輸送の主役となっていました。畝傍駅の開設は八木町の構造も大きく変え、駅前を東西に延びる道沿いに役場・銀行・郵便局・旧畝傍中学校が立ち並ぶようになりました。

ご存じの通り、現在の駅舎は1940(昭和15)年開催の紀元2600年大祭記念事業に合わせ、畝傍御陵や橿原神宮への参拝者の乗降駅として建て替えられました。この風格ある建物が建てられたのと前後して、現在の国道24号につながる幹線道路が整備されたり、それ以外にも道路・鉄道の付け替えや土地区画整理、スポーツ・文化施設（後の橿原公苑）が建設されたりするなど、さまざまな事業が実施されており、これらが橿原市の都市整備を促したことは疑いありません。

畝傍駅が、開業後の130余年、奈良県内の鉄道・道路網の整備や産業振興、橿原市の形成とどのように関わりながら歴史を歩んできたのかを、いっしょに考えてみましょう。

■中山嘉彦（近畿産業考古学会 会長）

関西学院大学大学院単位取得退学後、1991年に大阪学院大学へ着任。2018年より産業遺産学会理事、2022年より近畿産業考古学会会長。

■北山峰生（奈良県立橿原考古学研究所 調査第一係長）

関西大学大学院修了後、2000年に橿原考古学研究所へ就職、奈良県文化財保存課勤務を経て現職。

■西川 聡（今井町在住 近畿産業考古学会会員）

■申込不要、入場無料（先着順）

- 問い合わせは【携帯：080-3800-5650 イガミ】もしくは、
下記HPの【問い合わせフォーム】をご利用ください。

<https://yagimachi-net.jp/>



- 定員に達し次第、入場を締め切らせていただきます。
- 発熱(37.5度以上)や、せきなど風邪の症状ほか体調に不安のある方はご来場をご遠慮ください。あらかじめご了承ください。
- 天候等の理由で不開催となった場合は、NPO法人八木まちづくりネットワークHPに記載します。